

每日記

93
6
5

準貴

四

每日  
日記



第四冊

庚寅三丙寅年

每日記

九月十日

武書

每本四

古門法

小

每日記

每日記

九月十日 晴

今卯より別宮に召立られたり。此正に氏主の代也。兼祀  
多之志方殿に三座あり。用之る所也。此殿中一之坐  
りててあり

九月十日 晴

九月十日 晴

事去後

法乃奥より

今午就中極之極に小座附之。清系と云ふ事也。  
所の  
友成は月多し。此の法は月族掛人所りの所なり

此より其の如く月鏡掛之抄評系と伊勢と玉少を  
附し其の如くあり

口能乎

口能乎

古に就し其の如くあり評系と伊勢と玉少を  
其の如くあり其の如くあり其の如くあり  
其の如くあり其の如くあり其の如くあり

其の如くあり其の如くあり其の如くあり

其の如くあり

其の如くあり其の如くあり  
其の如くあり其の如くあり

其の如くあり其の如くあり其の如くあり

其の如くあり

其の如くあり

古に就し其の如くあり其の如くあり其の如くあり  
其の如くあり其の如くあり其の如くあり  
其の如くあり其の如くあり其の如くあり

其の如くあり其の如くあり  
其の如くあり其の如くあり

古に就し其の如くあり其の如くあり其の如くあり

其の如くあり

古に就し其の如くあり其の如くあり其の如くあり

左近右近 彦三十一

了了

松平周防彦次

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

立花出守玄吉

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

井上河内守秋

田沼玄蕃宗和

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

了了

福美中出権中桑送免中天左中宝根

中出権中桑送免中天左中宝根

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

中出権中桑送免中天左中宝根

生田丹波守秋

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

了了

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

中出権中桑送免中天左中宝根  
中出権中桑送免中天左中宝根

たしむるに  
しるす

大目付

高野山  
中津川  
中津川

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

加比奈

高野山  
中津川  
中津川

高野山  
中津川  
中津川

九月十日 卯

此年之儀定之別氏系部之條色塚町聖入新之儀

之儀法釋之儀之儀

中ノ儀中ノ儀

上條中儀及同ノ儀之儀之儀之儀之儀之儀

極空汗吹之儀中儀定之儀中ノ儀之儀之儀之儀

之儀之儀之儀

九月十日 卯

九月十日 卯

此年之儀定之別氏系部之條色塚町聖入新之儀

之儀法釋之儀之儀

九月十日 卯

中ノ儀中ノ儀

中ノ儀中ノ儀

此年之儀定之別氏系部之條色塚町聖入新之儀

之儀法釋之儀之儀

中ノ儀中ノ儀

上條中儀及同ノ儀之儀之儀之儀之儀

極空汗吹之儀中儀定之儀中ノ儀之儀之儀

之儀之儀之儀

此年之儀定之別氏系部之條色塚町聖入新之儀



本年の事も... 中... 移... 所... 之... 年... 年... 忍...

カ...  
コ...

り...  
ほ...

... 中...

... 中...

... 中...

... 中...

... 中...

カ...

九月十八日

... 中...

... 中...

... 中...

... 中...

... 中...

道方池林沖極片

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

道方池林沖極片

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

中書云云云云

右牛皮... 法... 利... 別... 後... 哉

字

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

... 中伏系地... 印... 中伏系地

丁

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

中伏系地... 印... 中伏系地

少前少公、其後江家、ふし、低く、戸、江口、中、月、年、  
 別、平、年、の、若、く、見、ら、れ、る、事、由、に、年、の、同、年、  
 一、く、あ、つ、く、  
 九月

九月廿五日

九月廿七日

九月廿九日

中、日、の、中、は、お、祭、を、さ、す、事、に、お、祭、に、あ、つ、く、  
 於、之、あ、つ、く、事、に、お、祭、に、あ、つ、く、事、に、お、祭、に、あ、つ、く、

九  
ら  
ら  
ら  
ら  
ら  
ら  
ら  
ら  
ら  
ら

保  
平  
年  
の  
事

九月

ち  
り  
の  
事  
は、  
 中  
日  
の  
事  
は、  
 保  
平  
の  
事  
は、  
 中  
日  
の  
事  
は、

九月



〃  
江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生  
得化中秘通と生は向かへて送るにせし

〃  
田舎の流石に心持を申分お尋ひ出りし  
らりぬれ候へり申分お尋ひ出りし

〃  
心身したまへば地まかりお尋ひ出りし  
もあがり候へり申分お尋ひ出りし

〃  
一子婦ふら

〃  
九月廿七日

〃  
江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生

〃  
中法院に江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生

〃  
九月廿七日

〃  
江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生

〃  
江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生

〃  
去年牛皮賣捌市と法布屋屋のり取  
と力まへり申分お尋ひ出りし

〃  
九月廿七日

〃  
江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生

〃  
一子婦ふら

〃  
江戸美を門の中なるかへし七の所生成お生

〃  
去年と申せし形勢違へて候へり申分お尋ひ出りし









九月廿八日  
 三三  
 九月廿八日

九月廿八日

三三

九月廿八日  
 三三

九月廿八日  
 三三

九月廿八日

九月廿八日  
 三三

予は毎日は向ふ之氣を能くし之氣を  
すむる事も亦た其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て

九月廿五日

予は毎日は向ふ之氣を能くし之氣を  
すむる事も亦た其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て

九月廿五日

九月廿五日

予は毎日は向ふ之氣を能くし之氣を  
すむる事も亦た其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て

九月初七日

予は毎日は向ふ之氣を能くし之氣を  
すむる事も亦た其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て

九月廿五日

予は毎日は向ふ之氣を能くし之氣を  
すむる事も亦た其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て

九月廿五日

予は毎日は向ふ之氣を能くし之氣を  
すむる事も亦た其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て  
其氣を以て其氣を以て其氣を以て

十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯

角 是 辰 未  
去 日 飛 浮 沈

十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯

江 口 庄 在 右

十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯

十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯  
十月 卯 色 卯

ふんしんまじりた  
たはちく庵にた

大日如来

室子法苑通一了り及よりそ是と断非西よりと  
子之ゆへおまじりおるる法苑并即是親と法苑  
て重授之至玉と回りの了りて海へ正妻母よりた

ふんしんまじりた

おひ

子系おまじりたのゆへに後引そまじりた

けりて

けりて様へけりておまじりたのゆへに後引そまじりた

ふんしんまじりたのゆへに後引そまじりたのゆへに後引そまじりた

二頁下

ふんしんまじりた

寺子お埋國口より白 寺子お口より白

中より白 寺子白 寺子白 口より白

後引口より白 寺子白 寺子白 口より白

後引口より白 寺子白 寺子白 口より白

ふんしんまじりた

一五〇のそ曲へ 寺子お我と清と庵に白 寺子お

別歩のゆへに白 寺子お我と清と庵に白 寺子お

ふんしんまじりた

一 五方之下... 二 五方之下... 三 五方之下... 四 五方之下... 五 五方之下... 六 五方之下... 七 五方之下... 八 五方之下... 九 五方之下... 十 五方之下...

九月廿六日

廿七日

十月廿九日

五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下...

廿七日

五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下...

五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下...

廿七日

十月廿九日

廿七日

五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下... 五方之下...

十月廿九日



之しはあまのつねにいふかたにまはる

ありや

中より後身の中川に中三郎が如法中三郎中三郎

中より後身の中川に

也の中三郎に在りし中三郎の如きなり

ありや

かの中三郎の如きなり

ありや

かの中三郎の如きなり

一 五三子の中三郎の如きなり

ありや

天降の如き

主の中三郎の如きなり

一 五三子の中三郎の如きなり

ありや

一 五三子の中三郎の如きなり

ありや

ありや

中より後身の中川に

中より後身の中川に

ありや



か  
ちりや白

ちりや白  
中野林 仲良公 仲遠公 仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

中野林 仲良公 仲遠公 仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

中野林 仲良公 仲遠公 仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

ちりや白

中野林

仲良公 仲遠公 仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

仲良公

仲遠公

仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

仲良公 仲遠公 仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

仲良公 仲遠公 仲久公 仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

ちりや白

ちりや白

ちりや白

仲良公

仲遠公

仲久公

仲長公 仲平公 仲直公 仲政公 仲通公 仲家公

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

ちりや白

かみくはしりゆき  
かみくはしりゆき

十月十日 申す事 申す事 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

十月十日 申す事

ちしゆくちの事之はしゆくち法然の事  
中用(書)十五

十月ある。一。七。

ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月十四日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月十九日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月二十日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿一日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿二日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿三日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿四日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿五日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿六日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿七日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿八日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月廿九日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十月三十日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十一月一日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十一月二日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十一月三日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十一月四日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

十一月五日辰時ちしゆくち法然の事之はしゆくち

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

十月廿九日 晴

十月廿九日 晴

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

十月廿九日 晴

十月廿九日 晴

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

十月廿九日 晴

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

三平津の石ヶさの傷に  
のれん、のれん、のれん、  
のれん、のれん、のれん、  
のれん、のれん、のれん、  
のれん、のれん、のれん、

十月廿七日 晴

十月廿七日 晴

易形林の上より津途迄  
半路までゆき

右津の門前、津途、津の  
池、池の畔、津の畔、

十月廿七日 晴

十月廿七日 晴

易形林の上より津途迄  
十月廿七日 晴

津の口別物、一方の  
易形林の上より津途迄

十月廿七日 晴

易形林の上より津途迄

十月廿七日 晴

易形林の上より津途迄

平人  
八坂屋切部  
高崎屋切部

去田文丸印

津東屋切部

口物部

小田子切部

古之書法... 及此... 者也

... 者也

... 者也

... 者也

... 者也

... 者也

世之... 故... 故... 故...

故... 故... 故... 故...

故... 故... 故... 故...

故... 故... 故... 故...

故... 故... 故... 故...

故... 故... 故... 故...

心

十日...

十日...

十日...

十日...

十日...

十月廿七日 晴

一 三 四 五 六 七 八 九 十

今午 龍舟の舟に乗りて 舟中を遊ぶ

ナリ 甚く 晴

由 幸 甚 甚 舟 中 遊 ぶ

舟 中 遊 ぶ 甚 甚

十月廿七日 晴

今午 龍舟の舟に乗りて 舟中を遊ぶ 甚 甚

舟 中 遊 ぶ 甚 甚

今午 龍舟の舟に乗りて 舟中を遊ぶ

三 四 五 六 七 八 九 十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

今午 龍舟の舟に乗りて 舟中を遊ぶ 甚 甚



十月廿七日 晴

一 子孫

らん能はれむとまふたはるし 徳用が候との故

ナリまゝの 訖

由方幸甚と申す侍及 〆の申す

下へ申す候と申す候

十月廿七日 訖

〆の申す候と申す候 〆の申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候

〆の申す候

〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

〆の申す候と申す候 〆の申す候

重宝殿女 揚る事なき

存て世に名を傳ふこと  
中世に於ては、徳を以て  
去るべき事あり、少くも  
お事、お事、お事、お事  
親心、お事、お事、お事  
お事、お事、お事、お事  
お事、お事、お事、お事

九月

對列以爲

以爲

物勢以爲

物勢以爲

公函... 卷...  
...

武...  
...

豐...  
...

...

...

...

「あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

すまはる

村、夜、ふ

ちとせのしづかにあつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

「あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

招本持中

十月廿九日

「あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

「あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

「あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

あつたまをちねるゑんをばくしにたてまつる

出立年々少くはたしりし。中身は元々印は中  
ふきしきありし。過る雲々し。印は

陸軍奉行の印

印は奉行の  
御系印ありし。 海軍奉行の印

りし。 奉行の

印は奉行の  
御系印ありし。 陸軍奉行の印

りし。 奉行の

中身印

中身奉行の  
印は奉行の

中身奉行の  
印は奉行の

中身奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

印は奉行の  
印は奉行の

カクシヨク本位亦極きニシテ  
中々其者亦亦ハカニシテ

此ノモノヨリ向キ申シ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

一 本府ノ事モ亦本年ニシテ  
カニシテ

カニシテ

カニシテ

- 一 年終り早
- 一 一より上り人
- 一 明大改て小
- 一 一より先き冬候
- 一 口大改て小より去り人此五
- 一 西成 形状
- 一 一王座 西成より去り
- 一 一海原口
- 一 一何處へは移り年終

十月 吃

有初 吃

福行 是ま中まに

有方 吃

ちしき分りえりまを去りあり申せり

まより

まはらま

左に記す用事並に申分あり申せり  
 申せり申せり申せり申せり

しき事

しき事

しき事

左に記す用事並に申分あり申せり  
 申せり申せり申せり申せり





ゆきや  
ゆきや  
ゆきや

ゆきや  
ゆきや  
ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

ゆきや

中世香部の花はあまの御心はあまの御心  
ついでに中一にのりあまの御心はあまの御心  
こわりの心は  
くしつにふたつ

十一

ちりけく

中世智かりの伝承先後中へ初めを  
さるしこわい  
初るは 天降るは 中世中世  
くしつ

十一

中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心  
中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心  
中世香部の花はあまの御心はあまの御心

中世香部の花はあまの御心はあまの御心

二月廿日 星記

本多沙多事部出之文之何處記之風也

二月廿日 星記

去月廿日

半時差之也

ちん龍弟之妻之しち所交ちる中し中辰時  
申時より始

星記  
みんち

ちん龍弟之妻之しち所交ちる中し中辰時

おるのち之る時附能しちとわすこと

うし女もち好めく未然とちを成

光輝心とてお山金器をく信及し山原子

別解之契し中用之庭菜を去店と改移し取

建好とてし

主好信也し時のあるるは也

ちん龍弟之妻之しち所交ちる中し中辰時

明物停止とて信とてちん龍弟之妻之し

し也

予のありて

多岐

予のありて

多岐

多岐

予のありて 多岐 予のありて

予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

予のありて 多岐 予のありて

二 子一子 津波智我上家

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

修及良之冲之と云りて思 城は也

中を中より心ゆく後十日に沖平去らるる也

ちりす

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

町奉行  
たきりあき

多分  
沼升ちあき

ちんぼん

青丸のちんぼ

あき

沼升ちあき

町奉行

たきりあき

あき

沼升ちあき

あき

沼升ちあき

沼升ちあき

ちんぼん

あき

ちんぼん

あき

沼升ちあき

沼升ちあき

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

沼升ちあき

あき

ちんぼん

ちんぼん

ちんぼん

あき

ちんぼん

ちんぼん

梅華五枝元

中花下の花わらうる花をいふふ部合もさしりす  
ち五少ぬね系ゆねささる花をいふんらら

かかこり

白く系中下

年々上り

去り下りの色

藤室の藤室文書山にさかたのたて

三番藤室のさしとささるて状さかたを

有るなり

白美ま川をさするを藤室のさしとささるて状さかたを  
加解ゆへ藤室のさしとささるて状さかたを  
藤室のさしとささるて状さかたを  
藤室のさしとささるて状さかたを  
藤室のさしとささるて状さかたを

去り下りの色

藤室のさしとささるて状さかたを

藤室のさしとささるて状さかたを  
藤室のさしとささるて状さかたを  
藤室のさしとささるて状さかたを



皇太子と少輔に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

**奉送さるる御體に對して**

皇太子が御體に對して、十月十日、皇太子が御體に

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

奉送さるる御體に對して、十月十日、皇太子が御體に  
事因らるるに由りて

二十

如之云  
持之云

うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり

幸哉

うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり

二十

此の書

有月

うたひしつしち  
みまをのり

うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり  
うたひしつしち  
みまをのり

二十

てしや。吃し

まは同分

たふ知伊のうまきし伊のやまふり有あ家とらうまほ

思美出田力えさふ。そしやうし手はあま

伊の休伊のやまのうまほ

位りくしりまの田代まら

まらうまらう  
心なきしや

まらうまらう 吃し

伊の休伊のやまのうまほ

因るまらうまらう  
念はらまら

まらうまらう 吃し

まらうまらう 吃し

伊の休伊のやまのうまほ

まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

中上 伊の休伊のやまのうまほ

まらうまらう

伊の休伊のやまのうまほ

まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

伊の休伊のやまのうまほ

まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

伊の休伊のやまのうまほ

まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

伊の休伊のやまのうまほ

正徳元年九月九日

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

之

市橋年分の無色之原紙の事

市橋の魚津海産の事

大正十一年

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

大正十一年市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

市橋の魚津海産の事

けつく掛回やまお新らあふりそま南風  
かき安海流多年と流々文ちゆて子業とあ  
ふらふとふり一知ん流回士と申りしひあふら  
し海しと

こまゆて及

「知るりてゆふ言し都令」お極言の自年半迄さしゆ  
田舎の月時あふりて糸好の糸は取申し  
あふりてゆふ言し都令にたあまは  
ちと件ふは別中とて申出さるるさふゆゆ  
十度あふりしと

三月のつゆ

「春のつゆ」  
三月のつゆ

ゆきあふりてとてあふ

古風けあふりては月と糸は流りあふ

北のあふりて  
世はあふりて

三月のつゆ

春のつゆ

三月のつゆ

古風けあふりては月と糸は流りあふ

北のあふりて

三月三日晴

中込日別中一方の三拾一春三月三日と云ふ  
おまをてと

之原津在来と云津先之辰中

以雄 差付

弟船林津上より中川へ向ふ

三月三日晴

雲山向ふと云ふ見るとはらり

解全と云ふと云ふ梅沢所へ

少の法子御書

時多中平

太と我弟と云ふと云ふ

將軍宮下中川へ是れ一魚に上陸矣と云ふ

三月三日晴

將軍宮下 別ち御書

三月三日晴

三月三日晴

三月三日晴 中川へ是れ一魚に上陸矣と云ふ

沖舟之形

二條之白紙

代千疋

首領

のり

のり

ウラヒ

沖舟の中

ちりり

ちりり

船の中

九條之白紙

ちりり

ちりり

ちりり

ちりり

ちりり

ちりり

ちりり

沖舟の中

三月

沖舟の中

ちりり

沖舟の中

ちりり



三月九日 卯時

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

三月十日 卯時

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

兄弟の事

少少

江は産を

廿七日

卯時

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

三月十一日 卯時

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

十時

「... 中夜に汗をかく所ありて至極に後夜に夢を  
見る如き事あり」

三月十二日

三月十三日

卯時

三月十日 記

中野の... 記

方... 記

加... 利所  
ク... 保七  
馬... 所

... 記

... 記

三... 記

三月十日 記

... 記

...

友のあり  
三月十日 吃  
事笑うてはるる

因州之令

三月十日 吃

三月十日 吃  
事笑うてはるる

三月十日 吃

友のあり

三月十日 吃  
事笑うてはるる

三月十日 吃

三月十日 吃

三月十日 吃  
事笑うてはるる

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Vertical handwritten text on the right page, including the characters '朝鮮國' (Korea).

Vertical handwritten text on the right page, possibly a date or specific note.

Main body of vertical handwritten text on the right page, continuing the notes or entries.

Vertical handwritten text on the left page, continuing the notes or entries.

Main body of vertical handwritten text on the left page, including the characters '朝鮮國' (Korea).

Small handwritten text at the bottom of the left page.

由賀之と海之守

三月十日 晴

或拾の毒に戸状をさしり

三月十日 晴

加解中子玉節 中解匠之云 西之在冬元

板金所

法

西

望

吉

三月十日 晴

上之様 中子玉節 西

右使 湯島 甲斐 乙辰 味 右佐 乙辰 甲斐

甲斐 乙辰 味

中子玉節 乙辰 味 向 乙辰 味 乙辰 味

乙辰 味 乙辰 味 乙辰 味

但 中子玉節 乙辰 味 乙辰 味

三月十日

中子玉節 乙辰 味 乙辰 味 乙辰 味

乙辰 味 乙辰 味 乙辰 味

中子玉節

加能正少元振師の及ぶるを益々疑ひも  
うし是の事未だ山宮及草々おぼるが如き  
事今より時勢存お亦陸軍一不揃古松  
而正少元少振師の墓並に時佐武おまら  
る九斗の如き江府存時春正元正お  
列取らぬ又正少元少おまらる

此正少元少の付書正少元少の付書正少元少

中述

江府存時春正元正の如き正少元少の如き

正少元少の如き正少元少の如き

正少元少

正少元少

正少元少の如き正少元少の如き  
正少元少の如き正少元少の如き

正少元少の如き正少元少の如き

正少元少の如き正少元少の如き

正少元少の如き正少元少の如き

正少元少の如き正少元少の如き

正少元少の如き正少元少の如き

Handwritten text in cursive style, likely a letter or a record, starting with a large character that resembles 'の'.

青月九万也

Handwritten text in cursive style, appearing to be a continuation of the text on the left page, with some characters crossed out.

Handwritten text in cursive style, continuing the narrative or record.

此迄より

青月廿万也

青月廿万也  
松平隆房

Handwritten text in cursive style, continuing the text from the previous page, including the characters '松平'.

三月廿二日

右川内  
三浦の事

ちのわまは少尉の所御知事  
ちのわまは少尉の所御知事  
ちのわまは少尉の所御知事

ちのわま

ちのわま

ちのわま

ちのわまは少尉の所御知事

はるのちのわまは少尉の所御知事  
はるのちのわまは少尉の所御知事  
はるのちのわまは少尉の所御知事

三月廿二日

ちのわまは少尉の所御知事

三月廿二日

ちのわまは少尉の所御知事

ちのわまは少尉の所御知事

ちのわまは少尉の所御知事



いふはむしあはれとちあはれあはれとていふは

列記

まゆかたはえ糸たの馬とてあはれとてあはれ

まゆかたはえ

あはれあはれ

あはれあはれ

青木とていふは

ちとていふはあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

カキの味 味をわす  
カキの味

ちくちくしん 味を知る ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

三月九日 吃

ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

ちくちくしん 味を知る ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

今もあ 長ちくちく

ちくちくしん 味を知る ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

ちくちくしん 味を知る ちくちくしん 味を知る  
ちくちくしん 味を知る

三月九日 吃

主上 ちくちくしん 味を知る

〃 秋去涉屋中物生〃  
〃 秋去涉屋中物生〃

十月 晦 〃 〃

〃 甲午年 十月 晦 〃

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

庚子年 丁卯年

正月 元日 〃

禁焚并及漆巾 牙信法解

二月 朔 〃

友武涉及之 梳台 〃 法祝词

三月 朔 〃

甲子年 〃

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

背月習 晴し

〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃

〃 〃

〃 〃

〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃  
〃 〃  
〃 〃

〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃  
〃 〃

〃 〃

少白元印仕至

多矣

中州新修志

五十七

西夏新修志

自序

初回修志古法

清山法法介法

了了或即法

古表七五介法

法台越志介法

印仕至

少白元

少白元

少白元印仕至  
中州新修志  
西夏新修志  
初回修志古法  
清山法法介法  
了了或即法  
古表七五介法  
法台越志介法

中州新修志  
西夏新修志  
初回修志古法  
清山法法介法  
了了或即法  
古表七五介法  
法台越志介法

少白元

少白元

少白元

少白元

少白元

二月五日

早雲寺川に舟を二隻下りて舟に乘りて  
中流に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

舟に乘りて舟に在り

二月六日

舟に在り

舟に乘りて舟に在り

二月七日 卯

二月七日

有子... 卯

二月八日 卯

二月九日 卯

二月十日 卯

二月十一日 卯

二月十二日 卯

二月十三日 卯

二月十四日 卯

二月十五日 卯

二月十六日 卯

二月十七日 卯



四月廿六

申日二日

公言振書序より

申日

お茶散中一彦

お茶散中一彦

大江書中由白書原ふ中ゆりたるはの  
勇たからむ年ころん加合ふん七

江ノ妻を川より下るが廿五日夕一より迄  
おとすこと

主と物作よりして守きし一斗

江ノ妻を川より下るが廿五日夕一より迄

おとすこと

主と物作よりして守きし一斗

江ノ妻を川より下るが廿五日夕一より迄

おとすこと

主と物作よりして守きし一斗

おとすこと

主と物作よりして守きし一斗

おとすこと

主と物作よりして守きし一斗



り申の申すに地多の多なる申す先汗に  
氣の病は多き事なれども病に内申の事  
も多き事なる申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに

水三十五

引子五十五

左の申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに

三の申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに  
申すに申すに申すに申すに申すに申すに

申す

申すに申すに申すに申すに申すに申すに

申すに申すに申すに申すに申すに申すに

申すに申すに申すに申すに申すに申すに

申すに申すに申すに申すに申すに申すに

申すに申すに申すに申すに申すに申すに

○遠くは方任に花ゆき海に舟の舟の舟  
法主の御りやかくしとの中を深き水に流るる  
やまの好まむし海に舟を流るる法にあり  
二流の流るる先は毒虫の心におもひ  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり

○列子志の舟を流るる海に舟を流るる舟にあり  
舟の流るる海に舟を流るる舟にあり

○月十のり 吃

○月十のり 吃

○月十のり 吃

○月十のり 吃

○月十のり 吃

○遠くは方任に花ゆき海に舟の舟の舟  
法主の御りやかくしとの中を深き水に流るる  
やまの好まむし海に舟を流るる法にあり  
二流の流るる先は毒虫の心におもひ  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり  
多の流るる海に舟を流るる舟にあり

○月十のり 吃

守月此方吃  
 此物在系  
 守月此方  
 守月此方  
 守月此方

列之及日  
 守月此方  
 守月此方  
 守月此方

守月此方

守月此方

守月此方  
 守月此方  
 守月此方  
 守月此方  
 守月此方

守月此方

守月此方

守月此方

守月此方

守月此方

守月此方

守月此方

〆月廿六日

あつち  
あつち

あつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

二月の初日  
 日曜日  
 二月の初日  
 日曜日  
 二月の初日  
 日曜日

二月の初日  
 日曜日  
 二月の初日  
 日曜日

二月の初日  
 日曜日  
 二月の初日  
 日曜日

二月の初日

二月の初日

二月の初日  
 日曜日

二月の初日  
 日曜日

二月百

如の月星し再海  
夕新也

主帥中より多し再海日  
り相也

去日飛取候

字集去月二十日  
王春之春二月十日  
十分より云々  
主帥中より多し再海日

二月百

主帥中より多し再海日

去日飛取候

澄夏  
中候

貞也

大正取と西  
中候

二月百

主帥中より多し再海日

少頃の間に...

二月五日

將軍 仲右殿

三五條

与 宛 申 之 由 候

二月六日

右 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

左 邊 御 意 奉 申 候 事 候 申 上 之 由 候 事

老 上 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

年 月 日

左 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

右 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

老 上 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

左 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

右 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

老 上 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

左 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

右 邊 御 意 之 由 候 事 候 申 上 之 由 候 事

西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて

西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて

西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて

西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて

西丹心をのるのて西丹心をのるのて

西丹心をのるのて

西丹心をのるのて西丹心をのるのて  
 西丹心をのるのて西丹心をのるのて



ウカサキ  
ウカサキ

有月丸。吃

將軍の御  
侍の御  
侍の御  
侍の御

一子保三子

一子保三子

左の能く申す  
右の能く申す  
左の能く申す  
右の能く申す

うすく  
うすく

うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

うすく  
うすく  
うすく  
うすく

おのれをいふは...  
おのれをいふは...  
おのれをいふは...

三月十日

おのれをいふは...  
おのれをいふは...  
おのれをいふは...  
おのれをいふは...

三月十日

おのれをいふは...  
おのれをいふは...  
おのれをいふは...

おのれをいふは...  
おのれをいふは...  
おのれをいふは...

おのれをいふは...  
おのれをいふは...  
おのれをいふは...

おのれをいふは...

とて久しきものなるべし  
とて別れ給ふはなほなほ  
有るもの也

のうけはし

四角の世玉

有るもの也

少少きものなるべし  
とて別れ給ふはなほなほ  
有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

有るもの也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

了ん之る 也

ち

ちの天に星の神を神香曲の神と云はる

りて星の神は星の系に伊分事と云はる

心事と云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

り

ちの神に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はる

神皇正統記に云はるは神皇正統記に云はる

〃 乃使松平紀定入侍 侍姫女 於德川平一 乃多時  
〃 延慶之上 市雜紙 取之 乃多時 乃多時 乃多時  
〃 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃使松平紀定入侍 侍姫女 於德川平一 乃多時  
乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時  
乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時  
乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

〃 乃使松平紀定入侍 侍姫女 於德川平一 乃多時  
乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時  
乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時  
乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

〃 乃使松平紀定入侍 侍姫女 於德川平一 乃多時

〃 乃使松平紀定入侍 侍姫女 於德川平一 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

〃 乃使松平紀定入侍 侍姫女 於德川平一 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時

乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時 乃多時







二月五日 晴

多岐津浦をきき海門の信々々の船とくする陸地  
うり出急回系へ取らる道り成りあはし

の成りきり物と成帝取津浦をきき船合信  
多岐のわくせくる陸地へ安急回系をきき  
うり出急回系へ取らる道り成りあはし

一

一

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

抄本云... 江口廣友... 三月十日

三月十日

江口廣友... 三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

抄本云... 三月十日

三月十日

抄本云... 三月十日

在能中用...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

二月寺 吃

...  
...

...  
...

...  
...  
...  
...

二月寺 吃

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...

...  
...

...  
...

...  
...  
...  
...

松本町の法華寺なる有妻秋と云ふ方の別荘  
より法華九ヶ所七ヶ所あり少後りは  
一也

此の寺の法華寺と云ふは

三ヶ所あり

白蓮寺

三ヶ所あり

法華寺

法華寺

法華寺

此の寺の法華寺と云ふは

法華寺

三ヶ所あり

法華寺

法華寺

此の寺の法華寺と云ふは

法華寺

法華寺

法華寺

五穀既登心之喜也...  
得之而守之...  
汝より来る也

乃ち中下年也

希合子の古の終の法

他三斗五升

有る事也

之を伸入其人多く...  
我指す所の...  
格別之法也...  
扱来りて...  
其法多し...  
其法多し...  
其法多し...

此言射了と...  
射了と申す...  
此言射了と申す...

慶應三年三月

申す事也

与年累年

乃ち...  
乃ち...  
乃ち...

言す事也

其法多し

此法...  
此法...  
此法...

此法...  
此法...  
此法...

三月十日 晴

「あつては毎字おかし

いふはたきとておかしな中書に

いふはたきとておかしな中書に

いふはたきとておかしな中書に

いふはたきとて

いふはたきとて

いふはたきとて

いふはたきとて

いふはたきとておかしな中書に

いふはたきとて

いふはたきとて

いふはたきとておかしな中書に

いふはたきとて

いふはたきとておかしな中書に

いふはたきとて

いふはたきとて

いふはたきとておかしな中書に

甲子年交子辰中法言主人  
少幼之代三叔之名序各事  
道向一也くはく甲子年  
方く是成道相本他記  
相本正信くはくくはく

相本信ふ

由中人本法暴仰二  
系一母信或く少人言  
教業之信者一也

相本信ふ

相本信ふ

相本信ふ

相本信ふ

相本信ふ

相本信ふ

三月十日

少幼之代三叔之名序各事  
道向一也くはく甲子年  
方く是成道相本他記  
相本正信くはくくはく

相本信ふ

少中へ洞女を愛ほすにや  
洞女を愛ほすにや  
たかく清き水に  
あはれに流るる下なる水

まをく糸子音に  
あはれに流るる下なる水

卯三月

星をよめる

清和の御宇

はなをよめる

お田阿才あはれ  
高き山あはれ

若原あはれ

知らば中よ志に  
あはれに流るる下なる水  
あはれに流るる下なる水  
あはれに流るる下なる水

あはれに流るる下なる水

一子あはれ

あはれに流るる下なる水

あはれに流るる下なる水

あはれに流るる下なる水



ちのてんはるるおつ知進すは十集のるる  
しんおまゝの心結集すは公記年を度元  
しん 河のちなるあし  
しん 之空の向まのあすはしん 中  
集をののしん 結集すは公記年を度元  
のてんはるるおつ知進すは十集のるる

ちのてんはるる

ちのてんはるる

ちのてんはるるおつ知進すは十集のるる  
しんおまゝの心結集すは公記年を度元  
しん 河のちなるあし  
しん 之空の向まのあすはしん 中  
集をののしん 結集すは公記年を度元  
のてんはるるおつ知進すは十集のるる

ちのてんはるる

ちのてんはるる

ちのてんはるるおつ知進すは十集のるる  
しんおまゝの心結集すは公記年を度元  
しん 河のちなるあし  
しん 之空の向まのあすはしん 中  
集をののしん 結集すは公記年を度元  
のてんはるるおつ知進すは十集のるる

ちのてんはるる

ちのてんはるる

ちのてんはるるおつ知進すは十集のるる  
しんおまゝの心結集すは公記年を度元  
しん 河のちなるあし  
しん 之空の向まのあすはしん 中  
集をののしん 結集すは公記年を度元  
のてんはるるおつ知進すは十集のるる

ちのてんはるる



之由之能中々々々

之由之能中々々々

之由之能中々々々  
之由之能中々々々  
之由之能中々々々  
之由之能中々々々  
之由之能中々々々

之由之能中々々

之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々

之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々

之由之能中々々

之由之能中々々

之由之能中々々

之由之能中々々

之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々  
之由之能中々々

お湯を器に注ぎ移す

空を去るものやふとさるうらふととぬかし  
し紙汁をきりぬす

ち便中何れにけしきとるにきつりゆき  
うらふや、けしきとるうらふにけしきとるゆき  
さしきとるけしきとるゆきとるゆきとるゆき  
しきとるゆきとるゆきとるゆきとるゆき

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す

お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す  
お湯を器に注ぎ移す





ちててとねそと

一を三千五

別れよの事

一日 五千五

辛卯の事

一日 三千五

あなごま

一日 千五

あなごま

大口のちててとねそと

二の事

ちててとねそと

ちててとねそと

ちててとねそと

ちててとねそと

三月十日

ちててとねそと

ちててとねそと

ちててとねそと

ちててとねそと

ちててとねそと

ちててとねそと





二月五日

中より来る竹 美濃三年中病に似たる  
為心以ら多し之を三年に及ばず  
中より来る竹に似たる

二月五日

之物 物の子目之如く扱

高経各  
去年の如く

二月五日

中より来る竹に似たる  
竹に似たる

竹に似たる 竹に似たる  
竹に似たる

竹に似たる 竹に似たる

二月五日

竹に似たる



わが事なすこと今

日月方是也

白くたふたふとすけりけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり

あまのつらふとすけり





三月廿二日

日 廿二日

少修施

日 廿二日

廿二日

方之批去附人十分之五... 且批列用便... 甲

一三三...



多岐土佐府中一々元半一々也越美内一々

但土佐土色一々元半一々也越美内一々

ちしじ向うらむくを原年一正の所くあ年向く  
カクくしき戦年越えくそ著るひあ日ん  
可んいむく下備年半一

ちりけり

一

本五也元半一々の白の地をの牛也順くふん

也の事西元半一々の西元半一

ちしじ向うらむくを原年一正の所くあ年向く

ちりけり  
一

るふん一々の向うらむくを原年一正の所くあ年向く

也の事西元半一々の西元半一

ちしじ向うらむくを原年一正の所くあ年向く

也の事西元半一々の西元半一

ちしじ向うらむくを原年一正の所くあ年向く

也の事西元半一々の西元半一

ちしじ向うらむくを原年一正の所くあ年向く

也の事西元半一々の西元半一

三月  
十九日  
十九日  
十九日

將軍 宮下 中務 一 後長 中務 一 元



廿日

二日

ちり紙中記さしは平山儀おきて由りてり

ちり紙

將軍 宮下お海へ居る中記儀

三月

十日

卯日

十日

酉日

十日

酉日

ちり紙元西中記儀

一 ちり紙中記儀

ちり紙

ちり紙

將軍 宮下お海へ居る中記儀

將軍 宮下

天澤山

將軍 宮下

中記儀

ちり紙中記儀

ちり紙中記儀

ちり紙

將軍 宮下お海へ居る中記儀

將軍 宮下お海へ居る中記儀

ちり紙

ちり紙

百六の 九  
夕別  
夕天

事別成のまに後く日そく石

月吉 吧

之に別之に心至中別余得中一ひと突  
乃

古之成法也

古之成法也

中初申に秘年を歴了候者人中一は至一は  
ありとも申一去人等物候候又の西の河に生  
即別法に委るる事と申一申一申一秘法に  
申上云外申上云事一の吹打運る人の事  
と申人等一の事一秘法に委るる事と申一申一申一

中初申に秘年を歴了候者人中一は至一は

ありとも申一去人等物候候又の西の河に生

即別法に委るる事と申一申一申一秘法に  
申上云外申上云事一の吹打運る人の事  
と申人等一の事一秘法に委るる事と申一申一申一

百六の 乙巳月

卯文

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

上

余身に別在故也取事以別使元直其

廿五

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

余身に別在故也取事以別使元直其

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

了月十日

Handwritten text in cursive Japanese style, including characters like 月, 花, and 草. The text is arranged in vertical columns on the right page.

Handwritten text in cursive Japanese style, including characters like 月, 花, and 草. The text is arranged in vertical columns on the left page.

中内保子

月夜

二條掛紙

冲后之

激下様之 冲城様往成

冲城様往成 西往切也

冲城様往成

冲内様へ宛

冲内様へ宛 洋来仕渡

今夜朝刻

書翰 内家

幕府へ宛

追々々々々々

冲城様往成

目録 通達

追々々々々々

中江寺住持 蓮生

大徳殿より且且五分半白くは保に存す

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

中江寺の住持 蓮生

了月十日

はげ毛

大井流

本 史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

了月十日

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事

史記のりるに比る自史年と事



此石はよく中絶する事ありては中絶の事なり

其原は元十

大正四年の事

是

又八別白の原は元十の事ありては麻の蔵に於て  
中絶する事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
中絶する事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
中絶する事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
中絶する事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
中絶する事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て

元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て

大正四年

此石はよく中絶する事ありては中絶の事なり  
其原は元十  
大正四年  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て  
元十の事ありては元十の事ありては麻の蔵に於て

了不在成敗... 幸也

... 國也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

年... 七五

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

... 治也

古くは神代文書に記されたる  
萬葉集の巻の七の事

月夜子 月夜子

とては宮に別はあはれ  
坊にたのむるは  
御事なむるは  
子年ぬか  
り人先

月夜子 月夜子  
月夜子

月夜子 月夜子

月夜子 月夜子

月夜子 月夜子  
月夜子



右高五尺五寸半也て足よりま  
中山石は河原より且そのくも入りし時と  
りとのちひな元お車は海舟のりま  
たて道

古御之傳

打つたん

梅壺とん

是の傳より住下は左に記すうた  
多る保也て且中山石のまは  
此後より且其の傳りし道と  
此道より保りし年と記す

あたら保

打つたん

梅壺とん

是の傳より住下は左に記すうた  
里りのま中山石のまは  
此後より年より傳りし道と  
記す

千細之書

まの代

足布一石

松土壺一石

中後代一石

中山石一石

右將軍宮下之記

うし海でさるふを松屋千子と申す

あし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

うし海でさるふを松屋千子と申す

月夜の吃

中法年一三年

大正五年元  
江田彦房  
中法年之  
江田彦房

中法年一三年

月夜の吃

中法年一三年  
中法年一三年  
中法年一三年  
中法年一三年

中法年一三年

中法年一三年

月夜の吃

中法年一三年

中法年一三年  
中法年一三年  
中法年一三年  
中法年一三年

中法年一三年

中法年一三年

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃

月夜の吃



大納言殿

傳奏

作畏

德

日新殿

印

使

感嘆の極に達するに至るまで  
多岐多岐の道程を経て  
ついにこの地にたどり着く

ついにこの地にたどり着く

紅毛の船乗りが居る所は  
此の島に在りては  
此の島に在りては

船

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

早稲田の島に在りては  
此の島に在りては

大坂  
津波新  
志保権島

月時吃

とら坂

古長尾中

〃 空美高河之千上高下持了百下りまろとてふ成  
ちとてふ  
子休行毒辛く成下

吉成

將軍年 宮下係子 細尾屋とて方後方けりて去

〃 修業大能多丹 修業大能多丹 修業大能多丹  
〃 成業大能多丹 成業大能多丹 成業大能多丹  
〃 成業大能多丹 成業大能多丹 成業大能多丹  
〃 成業大能多丹 成業大能多丹 成業大能多丹

十小り地まこつ年 十小り地まこつ年 十小り地まこつ年

五月初の吃 五月初の吃 五月初の吃

〃 空美高河之千上高下持了百下りまろとてふ成

朱成おちまると

子休行毒辛く成下

ちとてふ

吉成

初定中高のホ向好隆刑のたて成

是る天のし中なる

五月初

新和室の記述也。

十月十日。

土ヶ谷の記述也。是處中村の地。

者四云の記述也。

十月十日。

土ヶ谷の記述也。

一 今上中継成九月十日は至十時なる也。

土ヶ谷の記述也。

見

者四云の記述也。

十月十日。

土ヶ谷の記述也。

仁孝天皇の御記也。

十月十日。

新和室の記述也。

十月十日。

土ヶ谷の記述也。

新和室

土ヶ谷の記述也。

十月十日。

十月十日。

十月十日。

十月十日。

十月十日。

十月十日。

十月十日。

ちりぬきの子日次けり  
この時

一月十日 午後

一時 終りの時

十日 午前 神楽村

白紙 左海 米

ちりぬきの子日次けり

神楽村 神楽村

ちりぬき

油印 神楽村 神楽村

甲子 元年 神楽村

事 元 神楽村

ちりぬき

了

日次 神楽村

太くぬき 神楽村

口

差入 神楽村 神楽村

神楽村

神楽村 神楽村

神楽村 神楽村

神楽村 神楽村

五月分吃

五月分吃

江可名物者中屋正江中子以里田系と云

子名之便

安田

口所

半升

及酒と云り系之江中法成

五月分吃

江中

二條

九條

和子

口所

大徳

右車の江解

中月春は

三月分吃

三月分吃

三月分吃

中月春は

五月五日

五月五日

以可名物者中庭正之

子名之使

安田

日所

半升

及西之より事之

五月五日

江中

二條

九條

和子

リ中

大徳

右車の

中月

三左

子

五月

中月

かゝるに居るに因りて此の道に於ては

動かし難きものなり

よき事なりと云ふは

此の道に於ては

よき事なりと云ふは

此の道に於ては

よき事なりと云ふは

か





右今般借  
奏冲段比美  
務抄

五月十二日  
五月十日

五月十日

右...

三五...

五月十日

右...

...

...

...

...

今度と申すは、先づ...

今度と申すは

今度と申すは

今度と申すは、先づ...

今度と申すは

今度と申すは

今度と申すは

今度と申すは、先づ...

今度と申すは、先づ...

今度と申すは

今度と申すは

今度と申すは

今度と申すは

自云云  
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

るは夜よりをす市に法年とて 丁後  
一とあり

知れぬを心なるをさく口は口を去る

青月市の色

たしむらひの交り

し成りて地を厚くする 故に

るをいひては天をさすものなり  
しをさすものなり

なる中

す美多の至斗より 珍なる月市なり

半成あり

そ秋市をさすものなり

か月市なり

大崎より海より海まで

とて一とあり

知れぬ半件なり

石標市をさすものなり  
しをさすものなり

法成法の中

市あり

そ秋市をさすものなり





十月廿一日

傳々々々日中... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

先帝... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く...

十月廿一日

此の如く... 此の如く... 此の如く... 此の如く...

川下



大島二年より上京と云ふ由儀を母直以て記す  
廿二年夏申の由り上京の由を記す先由儀を  
之より先名付く一海島を記す

六月廿七日海島より文一に志在辰巳

六月

九條藤原氏より上京の由を記す  
之

六月

大島二年より上京と云ふ由儀を母直以て記す  
廿二年夏申の由り上京の由を記す先由儀を  
之より先名付く一海島を記す

大島二年より上京と云ふ由儀を母直以て記す  
廿二年夏申の由り上京の由を記す先由儀を  
之より先名付く一海島を記す

六月

大島二年より上京と云ふ由儀を母直以て記す  
廿二年夏申の由り上京の由を記す先由儀を  
之より先名付く一海島を記す

大島二年より上京と云ふ由儀を母直以て記す  
廿二年夏申の由り上京の由を記す先由儀を  
之より先名付く一海島を記す

守門射劍流源流

大なる... 守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

于綱一第

守門射劍流源流

此... 守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流

守門射劍流源流



六月九日

福平子儀之由乃臣孫弟秋子分比云々  
之り臣方との親無比係儀に事而中  
板倉秋下月族外之り臣の事ながら  
之り臣の事ながら

大工  
之り臣の事ながら

之り臣の事ながら

之り臣の事ながら

六月九日

之り臣の事ながら

今度兵庫開港之儀幕府建言之旨趣

有之由一昨年十月之港

勅許之節於彼地志之止也

亦由法之次身方之不容易而重大之

事件之身見以之趣無伏藏言上之仕之旨

謹而身見以之趣無伏藏言上之仕之旨  
西隅僻土之法立素来

事伴牙身見以之報無伏贓言上之信音

謹白也畏以假信後西隅僻古之法在素素

固陋寡守方今

亦邦內之事事跡之或疎况四海力國

大勢猶更亦知个仕換之亦所比孰先叙

系約

勅許非常之朝儀出以編字內之

變迂洋夷之情態以洞察之上天下

後世之為急遠大之計長策沙先見

也

後世之為遠大之計者莫先見

也定 計者莫先見

然若是遠之計然其具之不相

兵庫一港用損之得失今更可

鄙見之計者素同港之候極要之

地位幸殊更之為止道揚取之然志

之港之計同視之計決在不幸取之得志

猶即今之計林物其成敗得失志者

此計者不為得止

江上得志不多為將止

江上得志不多為將止  
江上得志不多為將止

諸列不願之治備志素人心一彼富國

強兵之江上政蹟諸吏操縱之權と又制

時志集輕侮之情態自之座撓畏編

可仕候必然之物事取公唯願之八合是

江上得志初終江上得志初終江上得志初終

江上得志初終江上得志初終江上得志初終

江上得志初終江上得志初終江上得志初終



沙若服初終沙一連中因轉力造更復

中威靈裝之海外之亦輝之極不穩也願

幸好公素清才之無識之小長是之于一中上

從之見也為之沙海舟中與也下之

深忍之海長

朝命雖止心身見之報德也幸養去

長義學

誠願德也願首謹言

中



六月廿四日

江戸番方六日三つあつた者へ由緒を尋ね  
上へ旅伊西志願申す

六日廿五日

津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、

六月廿六日

この中一板を収めりし中から  
かきとらりし中一板を収めりし中から  
津先があらざるありしは、

津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、

六月廿七日

津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、

六月廿八日

津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、  
津先があらざるありしは、

六月廿七日

江戸幕府より江戸町奉行宛  
上ノ様仰西ノ御用申上

六月廿七日

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

六月廿七日

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

江戸幕府より江戸町奉行宛  
御用申上

射野五月廿四日  
切通寺戸主  
子孫の事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事

此の事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事

此の事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事

此の事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事

此の事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事

此の事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事  
御座候事  
申付候事

申付候事

御座候事

御座候事



六月廿九日

大坂

二條橋

大坂の町は海に面してありて、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、

六月廿九日

大坂

二條橋

二條橋

二條橋

二條橋

二條橋

大坂の町は海に面してありて、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、

大坂

大坂の町は海に面してありて、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、

大坂の町は海に面してありて、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、

大坂の町は海に面してありて、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、  
舟の往来も甚だしく、

四

中

板

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中

中



たのむ事一からる色にんあふ事  
中候所候にらる言候事ゆらる言にんあふ事

六月廿七日

三浦大助を候

たのむ事候事候事言事言事  
折る事らる言事言事言事  
は候事候事言事言事言事  
言事言事言事言事言事  
言事言事言事言事言事

三浦大助  
大徳寺元

三浦大助  
言事言事言事言事言事

たのむ事一からる色にんあふ事

三浦大助

三浦大助  
言事言事言事言事言事

たのむ事一からる色にんあふ事  
言事言事言事言事言事

三浦大助

たのむ事一からる色にんあふ事  
言事言事言事言事言事

三浦大助

たのむ事一からる色にんあま  
中候所候にんあま候にんあま

六月廿日

三浦大助

たのむ事一からる色にんあま  
中候所候にんあま候にんあま

三浦大助  
大徳元年

三浦大助  
大徳元年

たのむ事一からる色にんあま

三浦大助

三浦大助  
大徳元年

たのむ事一からる色にんあま  
中候所候にんあま候にんあま

三浦大助

たのむ事一からる色にんあま  
中候所候にんあま候にんあま

三浦大助

てしるが

しるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

しるがしるがしるがしるが

七ノ二五

思ふは

藤原

大ニ田代

指の

下ニ上

身

海

石

新

大

一

大徳山 右方の紙

右の方より直線に

御書

青月御書

于細くお書

松平 富子の紙

右の方より直線に

青月御書

右の方より直線に

右の方より直線に

麻下下名

大分 世直

古川 抄

右の方より直線に

大分 世直

右の方より直線に

古川 抄

七月

御書

大徳寺元

此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては...

一、子に強ふと位

百七

千銅

松平宗重

此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては...

此の寺に在りては...

百七

此の寺に在りては...

松平宗重

此の寺に在りては...

松平宗重

此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては...

此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては... 此の寺に在りては...

百七

此の寺に在りては...

大...  
海原

大...  
海原

大...

大...

大...

大...  
海原

大...

大...

大...

大...

大...

大...  
海原

大...  
海原

梅老山名海...  
力...  
...

口ナキ

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



梅老の山名海の印のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

口本寺の  
かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

かきとくわえん海のうらむ白

日野綱教使

西野將監

月十九日

中書

中書一過

知府村人...  
...  
...

中書

板倉江家

今月...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

七月十九日

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

陸軍總裁  
海軍總裁

海軍總裁  
陸軍總裁

大... 陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...  
陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...

陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...  
陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...

陸軍

海軍

陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...  
陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...

陸軍... 海軍...

陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...

陸軍

陸軍... 海軍... 陸軍... 海軍...

陸軍

ひび

松平氏臣

子細

大ツノノ草子ノ経カノ方ニテ

心カクニテ

平心

細部

大カノノ草知カノ方ニテ

ツノノ草

大ツノノ草

大ツノノ草

大ツノノ草

ツノノ草

上棟

少亦同是和年誠中多秋分少  
少也秋年秋多秋分秋分秋分秋分

寮中馬布中

三六皮

痛

右

上中

夜股

中亦向口拍

胸腹細

角神

元

乃

七月

七月

中

三

子

七

松平屋敷

次在あつる守り

中より名をとり物に候と申すなりと云ふ事  
ふんかふと云ふれ生

七月廿八日

上様此取りの御京町に候と云ふ事

白紙

少弐の代松平報申す候と云ふ事  
松平報申す候と云ふ事

松平屋敷

はがらきと申す候と云ふ事  
松平報申す候と云ふ事

七月

白紙

松平屋敷

松平報申す候と云ふ事  
松平報申す候と云ふ事

二月六日

月夜抄 市松幸十郎之品 新深組 足月多田

（Right page main text - dense handwritten Japanese calligraphy)

二月九日

おもしろ



月夜抄 市松幸十郎之品 新深組 足月多田

（Left page main text - dense handwritten Japanese calligraphy)



為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

二月九日

京都府原田  
幸平

為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中  
為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

二月九日

為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中  
為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中  
為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

京都府原田  
幸平

為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中  
為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

二月九日

為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中  
為多志志五七五二五七中一為多志志五七五二五七中

宗方... 宗方... 宗方...

六月

宗方... 宗方... 宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

六月

宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

六月

宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

六月

宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

宗方... 宗方... 宗方...

六月

大...  
昭徳院様中

昭徳院殿 正一 光蓮社 澤譽道 雅大居士

大...  
昭徳院様

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣  
昭徳院様 正一 位 大政 右大臣  
昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

昭徳院様 正一 位 大政 右大臣

太  
上  
上  
上

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ  
あ

舟中記

舟中記

舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記

舟中記

舟中記

舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記

舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記

舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記

舟中記

舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記

舟中記

舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記  
舟中記

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

九月朔日 晴

ツヨク列由 一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

早稲田村 一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

九月二日 晴

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

九月三日 晴

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

半角の紙

三月十日

三月十日申の午の毒...

上ノ根...

つらくなる...

三月十日...

空の毛

堤口...

Main body of handwritten text on the right page, including characters like 根, 毛, and 堤.

三月十日

空の毛

Main body of handwritten text on the left page, including characters like 根, 毛, and 堤.

半角の紙

乃月

乃月

乃月... (faded text)

上ノ概

乃月... (faded text)

乃月... (faded text)

乃月... (faded text)

乃月... (faded text)

乃月... (faded text)

乃月

乃月

乃月... (faded text)

乃月... (faded text)



明をうたふ事と信じてゐる方と申す所からして是れは本に當る事と云ふ可なり  
上巻第一巻の巻頭——はるかに世の事と云ふ事や世の事と云ふ事や世の事と云ふ事  
はるかに世の事と云ふ事や世の事と云ふ事や世の事と云ふ事

七

... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...

... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...  
 ... 引取 ... 引取 ... 引取 ...

3
4

のなきけりゆ

大坂屋元  
大坂のよき酒

大坂の酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく

大坂の酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく

大坂の酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく

大坂の酒は心づくり餅つとく

大坂の酒は心づくり餅つとく

大坂の酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく  
しるしあはれ酒は心づくり餅つとく



多岐公

九月十日

高田細次

考中... 九月十日... 高田細次

九月十日... 高田細次

九月十日... 高田細次

九月十日

高田細次

九月十日... 高田細次

九月十日

大  
古  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

大  
大  
大  
大

此を其の... 諸君... 社... 加... 中... 法... 別... 下... 令... 利... 地... 功...

あ... 社... 中... 法... 別... 下... 令... 利... 地... 功... 一一人... 信...

大正... 年... 月... 日... 中... 法... 別... 下... 令... 利... 地... 功...

中... 法... 別... 下... 令... 利... 地... 功...

中... 法... 別... 下... 令... 利... 地... 功...

中... 法... 別... 下... 令... 利... 地... 功... 一一人... 信...





東の如くはと移るは年易流くは本  
候し古くは名所をくゆくは政令の如く  
守るべき候は御由一ん下りも也と上  
より下り候  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

利根川  
利根川

利根川

乃月

乃月

大  
乃月

乃月

乃月

乃月

乃月

乃月

乃月

松平海軍少将  
松平花江少将  
松平定房少将  
松平定房少将  
松平定房少将  
松平定房少将  
松平定房少将  
松平定房少将  
松平定房少将  
松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

松平定房少将

乃月先あり能し

此言別申し... 乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

乃月先あり能し

字々下と方象 下流 念の力と云  
見方より用致す下と云ふ云々 十印 庶民  
と云ふ 庶民 念の力と云

徳方守 大寺 庶民

大寺 下流 念の力と云  
下流 念の力と云  
念の力と云

九ノ九ノ九ノ九

徳方守

大寺 庶民

大寺 下流 念の力と云

下流 念の力と云

徳方守

大寺 庶民

大寺 下流 念の力と云

下流 念の力と云

大寺 庶民

下流 念の力と云

大寺 下流 念の力と云

下流 念の力と云

一 為 如 之 也

く

右 之 也

一 年 分 之 也

平 山 板 之 也

大 月 之 也

の 也

大 月 之 也

大

大 月 之 也

の 也

大 月 之 也

大 月 之 也

大 月 之 也

大 月 之 也

大 月 之 也

大 月 之 也

大

大 月 之 也

大 月 之 也

大 月 之 也

中後分帳より... 延元

勘定... 延元

右一也

大徳元

延元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

大徳元

二百年花より元へ所海海に  
何れもたは

あや

あや

云々より建し  
中野と申す  
さるる

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あや

あまのうへにあり

大御之様

藤原七郎

ついでに御使下り申上り候御事候に  
御座候に御座候に御座候に御座候に

御座候に御座候に御座候に御座候に

藤原七郎

藤原七郎

御座候に御座候に御座候に御座候に  
御座候に御座候に御座候に御座候に

御座候に御座候に御座候に御座候に

藤原七郎

あまのうへにあり

大御之様

藤原七郎

藤原七郎

あまのうへにあり  
御座候に御座候に御座候に御座候に  
御座候に御座候に御座候に御座候に



大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山

大石山



ももつりよきしとて無門のつ先番なるり  
少軒の筆もふかき紙後  
不色の中道に糸の流るるのあはれにきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは

三日

十日

十日のうしろしとて無門のつ先番なるり  
少軒の筆もふかき紙後  
不色の中道に糸の流るるのあはれにきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは

十日  
十日のうしろしとて無門のつ先番なるり  
少軒の筆もふかき紙後  
不色の中道に糸の流るるのあはれにきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは

十日

十日  
十日のうしろしとて無門のつ先番なるり  
少軒の筆もふかき紙後  
不色の中道に糸の流るるのあはれにきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは  
そらにけしきひききくはつふきあはれきくは

くひんをわたりて、つらやうに  
せうせいのしんりんをせうせいのしんりん

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

くひんをわたりて、つらやうに  
せうせいのしんりんをせうせいのしんりん  
くひんをわたりて、つらやうに  
せうせいのしんりんをせうせいのしんりん  
くひんをわたりて、つらやうに  
せうせいのしんりんをせうせいのしんりん  
くひんをわたりて、つらやうに  
せうせいのしんりんをせうせいのしんりん  
くひんをわたりて、つらやうに  
せうせいのしんりんをせうせいのしんりん

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

くひんをわたりて

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

せうせいのしんりん

くひんをわたりて

十月廿一日

何と云ふ迄も并極分の事なす  
月夜外にほのろきふらふ末  
許すふり一色紅きるる

太刀打の馬場

多中

杖

杖の事

二條

二條の事

二條の事  
二條の事  
二條の事

中

中の事

太一三

太一三の事

花

十月





十日あり

少くも

中多様

井河掃部

松平大納言

伊達守

柳多

松平朝

百代美  
三輪寺

元々  
中納言

志  
志  
志  
志  
志

十日あり

此  
此  
此  
此  
此

中  
中  
中  
中  
中

一  
一  
一  
一  
一

若  
若  
若  
若  
若



十日あり

少少あり

中多し

井河掃部

松平左衛門

伊達守

柳多

松平朝

松平朝

松平朝

百廿五  
三十一

元々  
中細

志  
志  
志  
志  
志

十日あり

此  
此  
此  
此  
此

中  
中  
中  
中  
中

一  
一  
一  
一  
一

名  
名  
名  
名  
名

正德信上京山  
平内何處

一商號于日法並心以因

大長到以商收以心因

之字及以心字字心

又字心字字字心

中字心字字字心

心字心

一林字字心字字心

心字心字字字心

心字心字字字心

心字心字字字心

一林字字心字字心

心字心字字字心

心字心字字字心

予友の法を以て

一 夫も亦行所は是之に用

道は是れを己に事海に

歩む其の究世後世に

可也と云ふは人の懐に

有るは人の懐に是れを

以て是れを以て

一 夫も亦行所は是之に用

人言はしは是れを以て

は是れを以て

は是れを以て

は是れを以て

一 夫も亦行所は是之に用

は是れを以て

は是れを以て

は是れを以て

は是れを以て

此世古往今來大義所歸  
實源流之公理一以貫之  
何事不為之而為之也  
此世古往今來大義所歸  
實源流之公理一以貫之

刑法之公理一以貫之  
此世古往今來大義所歸  
實源流之公理一以貫之

此世古往今來大義所歸  
實源流之公理一以貫之

此世古往今來大義所歸  
實源流之公理一以貫之

為用... 何人... 隔... 海... 為... 色... 色... 中... 上... 海... 為... 色... 色... 中... 上... 海... 為... 色... 色... 中... 上...

十月...

右... 也... 初... 海...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...

一... 也... 也... 也... 也...



松平物書

家集

云十七り別紙也  
中下紙に印するに  
札也に  
印す  
先  
おもしろ

一 所ありき  
印す  
別紙に  
由る  
紙

あ  
り  
文  
云

下  
紙  
に  
流  
産  
と  
す  
上

二 紙  
と  
す  
か  
ら  
今  
迄  
部  
の  
紙  
を  
流  
入

流  
産  
紙  
を  
流  
入  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

下  
札

中  
下  
紙  
也

一 流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

り  
れ

流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

一 流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す

流  
産  
紙  
と  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す  
る  
に  
依  
り  
て  
印  
す





力はつりてふと申す事  
中道分去十三

日  
古金重宝

不武の流し中事  
所化の力

中事  
中事

中事  
中事

中事  
中事

中事  
中事

中事  
中事

中事  
中事

中事  
中事

中事  
中事

長就 不志 何の 事か

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

新編 御用 御用  
御用 御用 御用  
御用 御用 御用

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

中州 法と 申り 志は 年 或は 事 あり

如玉 なる 故 何 何

一口を流し... 早稲... 左... 右...

ツキ...

十月五日

左... 右...

左... 右...

左... 右...

左... 右...

左... 右...

左... 右...

左... 右...

左... 右...



御用之儀有之被

正衣冠... 御用之儀有之被... 必可有上着... 但用意... 期限... 上着可有之事

御用之儀有之被

御用之儀有之被

御用之儀有之被... 必可有上着... 但用意... 期限... 上着可有之事

御用之儀有之被... 必可有上着... 但用意... 期限... 上着可有之事

御用之儀有之被

必可有上着

但用意... 期限... 上着可有之事

大徳門内方

大... 乃... 乃...

十月廿六日

既

大...

大...

十月廿七日

大... 大...

中... 大... 大...

將軍...

將軍...

將軍...

大...

將軍...

將軍...

美園法以上

十月廿四日

諸君之來。一也。此。有。

伊州法。其。出。之。是。也。也。也。也。

伊州法。其。出。之。是。也。也。也。也。

大。小。之。日。之。神。所。之。也。也。也。也。

一。不。可。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

伊州法。其。出。之。是。也。也。也。也。

上。之。法。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

大。小。之。日。之。神。所。之。也。也。也。也。

一。不。可。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

伊州法。其。出。之。是。也。也。也。也。

十月廿四日

伊州法。其。出。之。是。也。也。也。也。

一。不。可。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

十月廿九日

左に記すは三也之の事也

物志子は三也之の事也

と申すは三也之の事也

火急は三也之の事也

少所中は三也之の事也

余右に三也之の事也

物志子三也之の事也

少所中三也之の事也

火急三也之の事也

と申す三也之の事也

物志子三也之の事也

一 三也之の事也

大正九年

一 三也之の事也

物志子三也之の事也

少所中三也之の事也



心もあはれ

右白

おとこはなはあはれむさうり  
うけの中あはれにひりく  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり

おとこはなはあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり  
あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

あやふくあはれむさうり

右之段原中

大... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

十月二日

山本抄物

行の事

大... (vertical text)

十月二日

何 又飛多升 柱天地之極  
一 志之紀 一 志之紀  
一 志之紀 一 志之紀  
一 志之紀 一 志之紀  
一 志之紀 一 志之紀  
一 志之紀 一 志之紀

中 手 方 之 紀

海 天 之 紀

右 手 之 紀 力 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀

青 月 之 紀

二 條 控 政 錄

右 此 之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀  
之 紀 之 紀 之 紀

青 月 之 紀

大徳ありえ

大徳ありえ

十月廿九日

五月二十日方元... 申の海舟... 之の更... 月廿九日

十月廿九日方元...

十月廿九日方元...

早... 月

水子... 十月廿九日... 申の海舟... 之の更... 月廿九日

子... 花... 月...

うり... 花...

うり... 花...

花... 月... 花...

花... 月...

花... 月...

花... 月...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

花... 月... 花...

十月廿三日

晴

十一

早戸在後中九ノ事ナシト云也

平山ノ移ニ事無シ

乃修志如云

大島子孫ノ事ハ...

十月廿四日

方ノ...

...

十月廿五日

商源院

方ノ...

...

十月廿六日

...

...

...

...

十月十日

晴

大徳寺

大徳寺の御願に奉りし御札を御覽に申すに御願の御札は御座りませぬ

一、御願の御札は御座りませぬ

二、御願の御札は御座りませぬ

三、御願の御札は御座りませぬ

四、御願の御札は御座りませぬ

五、御願の御札は御座りませぬ

大徳寺の御願に奉りし御札を御覽に申すに御願の御札は御座りませぬ

一、御願の御札は御座りませぬ

二、御願の御札は御座りませぬ

大徳寺

大徳寺の御願に奉りし御札を御覽に申すに御願の御札は御座りませぬ

一、御願の御札は御座りませぬ

大徳寺

大徳寺の御願に奉りし御札を御覽に申すに御願の御札は御座りませぬ

玉海刻 本館の村に古名を合する  
刻 今迄 了らぬ  
は 後 村 後 為  
か 後 村 後 為  
江 上  
之 中  
三 丹 三 中 也  
カ 中 人 也  
三 丹 三 中 也

玉海刻 本館の村に古名を合する  
刻 今迄 了らぬ  
は 後 村 後 為  
か 後 村 後 為  
江 上  
之 中  
三 丹 三 中 也  
カ 中 人 也  
三 丹 三 中 也  
二 中 三 也  
玉 海 刻 本 館 の 村 に 古 名 を 合 す る  
刻 今 迄 了 ら ぬ  
は 後 村 後 為  
か 後 村 後 為  
江 上  
之 中  
三 丹 三 中 也  
カ 中 人 也  
三 丹 三 中 也  
二 中 三 也

カ 中 人 也  
三 丹 三 中 也  
二 中 三 也  
玉 海 刻 本 館 の 村 に 古 名 を 合 す る  
刻 今 迄 了 ら ぬ  
は 後 村 後 為  
か 後 村 後 為  
江 上  
之 中  
三 丹 三 中 也  
カ 中 人 也  
三 丹 三 中 也  
二 中 三 也



大なる所...  
少くも...  
...  
...

十...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

十...  
...

...  
...

...  
...  
...

...  
...

...  
...

江戶元  
坊のり  
かぶら

あしゆ  
一りゆ

一りゆ

十月十九日

之別集

新編  
改し  
のり

古川

あしゆ  
坊のり  
かぶら

十月十九日

あしゆ

坊のり

あしゆ  
坊のり  
かぶら



原研... ねんた... じ...

い...

た...

た... じ... ねんた...

ふ... じ... ねんた...

ふ... じ... ねんた...

ふ... じ... ねんた...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

あ...

七月廿一日

あ...



江戸

江戸の町は昔より賑わいありては申  
上り極楽の地なり

江戸

江戸

江戸

江戸の町は昔より賑わいありては申  
上り極楽の地なり

江戸

江戸の町は昔より賑わいありては申  
上り極楽の地なり

江戸

江戸の町は昔より賑わいありては申  
上り極楽の地なり



之流也

野馬守候上月中旬 上京仕り候事

當年月事

中州法らり申上國伴以老道一十年以遠海

國物未申上法之候申上申上申上之候甚也

申上申上申上申上

中州伴ら知ら候事候事

二月候

右科申上事下事也

右事下

右事下

九條在

大炊中

大之也 申物候

かろ念来分有叶し

候事下事下事下

大之也

右事下事下事下事下

十三 二月二十日





*[Faint bleed-through handwriting from the reverse side]*

*[Faint bleed-through handwriting from the reverse side]*

日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞

日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞  
 日向 守之丞

Handwritten notes in cursive script at the top of the right page, including the characters '木' (tree) and '水' (water).

三月四日

日定及  
中村  
日新  
松  
柳

Main handwritten text on the right side of the left page, starting with '年四月' and continuing with several lines of cursive characters.

松平

Large vertical handwritten characters on the left side of the left page.

大徳寺

大徳寺に在りて其の

寺に在りて其の

青月五日

此の寺に在りて其の  
寺に在りて其の

寺に在りて其の

寺に在りて其の  
寺に在りて其の

寺に在りて其の

寺に在りて其の

寺に在りて其の

寺に在りて其の

寺に在りて其の

大徳寺

寺に在りて其の

青月八日

寺に在りて其の  
寺に在りて其の



雜言中 江 山 水 歌 也

朝政一新 四海無疆 志士所為 上下和親  
こゝろありて 思ふに 奉

一 昔 陽 春 矣 少 雨 遂 止 思 之 奉

一 多 矣 寧 倦 乎 帝 不 中 之 書 而  
おのろ 甲 乙 也 奉

一 大 方 矣 少 雨 遂 止 思 之 奉  
中 遂 止 思 之 奉

海 風 不 容 言 勿 希 夫 之 奉 仲 是 之

建 言 下 仕 望 此 身 之 正 少 雨 遂 止 思 之 奉  
少 雨 遂 止 思 之 奉

つし

去 月 の

市 之 海 風 不 容 言 勿 希 夫 之 奉 仲 是 之

大 和 中 之 事 也

中 之 事 也  
海 風 不 容 言 勿 希 夫 之 奉 仲 是 之

此 之 事 也  
海 風 不 容 言 勿 希 夫 之 奉 仲 是 之

多之在  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故

おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故

三月十日  
おん年々風運より故

おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故

三月十日  
おん年々風運より故

おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故

おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故

おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故  
おん年々風運より故

肩原... 細川... 交際... 下... 上... 表...  
細川... 交際... 下... 上... 表...  
細川... 交際... 下... 上... 表...

事... 細川... 交際... 下... 上... 表...  
事... 細川... 交際... 下... 上... 表...  
事... 細川... 交際... 下... 上... 表...

事... 細川... 交際... 下... 上... 表...



松平陸奥會社...  
御使  
此の事無しの後...  
御使

三月十九日

松平陸奥會社...  
御使

松平陸奥會社...  
御使

松平陸奥會社...  
御使

松平陸奥會社...  
御使

松平陸奥會社...  
御使

三月十九日

御使

御使

御使

御使

三月十九日

御使

御使

三月十九日

御使

御使

御使

三月十九日

御使

御使

多無以役不為之... 傳流... 中名由

御用... 已制... 廣源

三月十日

三月十日

此... 廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

廣源

他人可撰卷之何也名譽子可子可也

可成口可成一口  
徳川中府之...

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

# 青

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

可成也口可成也  
中府之...

年々少くも... 江中細く...  
 此より水... 船...  
 江中...

三月十日

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

此より水... 船...

新海軍中佐

大五七の格を仰ぐ

定まるる方々を以て之を志すべし

此の如くしるべし

但し此の如くしるべし

青月十六日

市川中

此の如くしるべし

一也

二也

三也

四也

五也

六也

青月十六日

市川中

此の如くしるべし

いふ事

三月廿九

陰

物

古

大... 中... 古... 静

いふ事

いふ事

いふ事

大... 中... 古... 静

三月廿九

いふ事

大... 中... 古... 静

方... 記

書... 記

年... 記

海... 記

可... 記

全... 記

○... 記

コ... 記

コ... 記

コ... 記

コ... 記

中... 記

中... 記

中... 記

中... 記

中... 記

三... 記

中... 記

中... 記

中... 記

中... 記

中... 記

古... 中川... 上京... 長谷...  
中川... 古... 上京... 長谷...  
中川... 古... 上京... 長谷...

古... 中川... 上京... 長谷...

中川... 古... 上京... 長谷...  
中川... 古... 上京... 長谷...  
中川... 古... 上京... 長谷...

古... 中川... 上京... 長谷...

古... 中川... 上京... 長谷...

古... 中川... 上京... 長谷...  
古... 中川... 上京... 長谷...  
古... 中川... 上京... 長谷...



中川維理方より頼る方有る中平の金花  
中平の金花也心之付入る事あり  
私に頼る事あり

中平反

中平反

立白大六

立白

立白

甲子年

乙未年

丙申年

丁酉年

戊戌年

己亥年

庚子年

辛丑年

壬寅年

癸卯年



辛酉元月

二月未至五日  
三月未至五日  
四月未至五日  
五月未至五日  
六月未至五日  
七月未至五日  
八月未至五日  
九月未至五日  
十月未至五日  
十一月未至五日  
十二月未至五日

尚子之字後由那法排  
他之字後由那法排

他之字後由那法排

上之振也 女之振也

女之振也



